

ICT活用推進事業

市では、小学校1年生から中学校3年生までの全ての教室に「プロジェクター」と「実物投影機」をセットで配置する計画が進行中です。既に6割の教室に配置されており、保護者の皆さんの中には、授業で使われている様子を見た人も多いのではないのでしょうか。

①タブレットを用いた「対話的な学び」

今後、「学校に1学級分(1人1台)の児童生徒用タブレット」や「各教室の無線LAN環境」を追加していく予定です。これによって「タブレットにあるそれぞれの考えを共有したディスカッション」、「タブレットで一人一人が表現する機会を保障する」など、今の時代に求められる「対話的な学び」を実施していきます。

→
タブレットで実験手順の説明動画をいつでも確認できます。



②プログラミング学習へのチャレンジ

10月5日に、株式会社マキノハラボによる、教員対象の「ドローン(プログラミング教育)研修会」を実施しました。株式会社マキノハラボでは、大学教授などのスタッフが農業、建築、教育などの分野でのまちおこし事業に取り組んでいます。市教育委員会では、プログラミング学習などを通じて、最先端の研究者や企業、地域人材などと連携した情報活用能力育成の仕組みづくりに取り組んでいきます。



←
「ドローンを空中で「四角形に動かす」というプログラミングにチャレンジする先生たち。」

ICT (アイ・シー・ティー)
[Information and Communication Technology] の略で、情報通信技術のこと。

英語力向上サポート事業

2020年度からの小学校における新学習指導要領の完全実施により、小学校3・4年生で外国語活動を週1時間、5・6年生では外国語を週2時間実施することになります。市では、時代の変化を先取りしながら対応しようとして、平成27年度から「英語力向上サポート事業」を立ち上げ、取り組んできました。英語力を身に付けることを通じて、異文化・異言語の理解(新たな情報や発想の獲得)、コミュニケーション力、自ら視野を拡げ人生をより豊かにする姿勢を育てることを目標に、学校で行う授業づくりと連携しながら、さまざまなサポート事業に取り組んでいます。

→
先生たちもアクティビティに挑戦しながら、指導力を高めます。



①6人のALT(外国語指導助手)を配置

6人のALTを配置し、市独自に保育園・幼稚園、小学校低学年から外国語活動を実施することと、幼児期からの外国人との触れ合いや英語の聞き慣れを目指しています。また、小学校教員の指導力を高めるために「外国語活動指導力向上研修会」も実施しています。

②イングリッシュキャンプの実施

子どもたちが夏休みに、小学校3・4年は半日、5・6年と中学生は1日、オールイングリッシュの空間に身を置き、ALTのネイティブイングリッシュや外国の文化に触れ、英語でコミュニケーションをとる楽しさを体感しています。

今後も、牧之原市が東京オリンピックサーフィン競技のアメリカ・中国のホストタウンに登録されたことや、富士山静岡空港などのさまざまな魅力を生かし、異文化や異言語に触れる機会を創っていきます。

牧之原市の 特色ある教育

牧之原市の未来のために実行することとして市長が市民の皆さんに約束した、特色ある教育「ICT活用推進事業」と「英語力向上サポート事業」について紹介します。
問い合わせ 学校教育課 松林 ☎32645

「こころざしをもち、夢ある人」に
小学校では2020年、中学校では2021年から、「新学習指導要領」が完全実施されます。
市では、その学習指導要領で強調されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に有効である「ICT活用」を積極的に進めるために、環境整備や研修の充実に取り組んでいます。
また、小学校で教科化される授業時数が増える「外国語」と、小学校3・4年生に導入される「外国語活動」に十分対応できるように、国に先んじて、市独自に幼稚園・保育園や小学校1年生から外国語活動を実施し、その全ての授業に外国語指導助手(ALT)を配置しています。
こうした牧之原市の特色ある教育により、子どもたちが「こころざしをもち、夢ある人」(牧之原市の教育理念)として、変化が激しい世の中をたくましく生き抜いていくことを願っています。

イングリッシュキャンプの様子。世界の楽器などのさまざまな文化に触れました。

